

「第25回森林（もり）は友達！作文コンクール」 受賞者決定！

関東森林管理局 東京事務所



学校で表彰してもらった最優秀賞を受賞した中野本郷小学校の戸田仁梧さん
おめでとうございます！



森林作文コンクールは、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県及び静岡県に所在する森林管理署、森林管理事務所及び高尾森林ふれあい推進センターが行った森林教室等に参加した小学4～6年生を対象に、平成9年から開催されています。体験を通じて感じたことを自ら作文にすることによって森林・林業に対する理解や関心を高めてもらうことを目的に、「森林作文コンクール実行委員会」（一般社団法人東京林業土木協会と関東森林管理局東京事務所で構成）が毎年行っているコンクールです。

25回目となる今年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止のために制限の多い学校生活の中で開催されました。しかしながら、参加団体数と参加生徒数ともにほぼコロナ禍前の水準に戻り、19団体から合計

1,375名の児童の参加がありました。

審査委員が審査対象となった144作品の審査を令和4年1月中旬から行い、2月9日にwebでの審査委員会を経て、最優秀賞等の受賞者36名が決定しました。3月4日に都内で表彰式の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一昨年と昨年に引き続き中止としました

最優秀賞の林野庁長官賞は、東京都中野区立中野本郷小学校5年生の戸田仁梧さんが受賞しました。「森林を学ぶ」と題し、オンラインで森林について学んだことや、実際に高尾山に行って学んだことは行ってみないとわからない貴重な体験だったと、みずみずしい表現で書かれた作品です。その他、初めはうまくできなかった丸太切りがコツをつかんだら上手にできるようになった喜びを書いた作品、高尾山に住むチョウやおじいさんになりきって森林の大切さを表現した作品、森林教室で学んだことで自分の祖父が持っている山の大切さを知ったと書いた作品などが受賞しました。

森林教室や林業体験を通じて、森林が持つ多様な働きがSDGsにつな



Webでの審査委員会の様子



がることを知り、自分の行動を変えていくきっかけとなった、と多くの児童が書いていたことが今回印象的でした。

受賞した児童には、賞状や副賞のほか、もりかみ協議会から協賛していただいた間伐材マーク認定商品のカートカンなどを贈呈し、それぞれの学校で祝っていただいています。令和4年度も、このコンクールを開催する予定です。早くマスクが不要な日常生活へ戻り、のびのびと新鮮な空気を吸いながらの森林教室や林業体験活動が実施されることを願っています。次こそは表彰式で児童の皆さんに会えるといいなと思っています。